

第 20 回白河市地域公共交通活性化協議会概要

日 時	平成 29 年 11 月 27 日（月）午後 1 時 30 分～3 時 15 分
場 所	市役所本庁舎正庁（5 階）
配布資料	<p>○会議資料</p> <p>白河市循環バス等の利用状況について</p> <p>白河市循環バス日曜・祝日等試験運行及び 1 日乗車券販売・利用状況について</p> <p>※白河市地域公共交通網形成計画策定関係資料については、暫定版のため掲載せず</p>
<p>■内容</p> <p>《会議》</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p style="padding-left: 2em;">圓谷光昭会長（副市長）よりあいさつ</p> <p>（会議成立報告）</p> <p style="padding-left: 2em;">設置要綱第 9 条第 2 項の規定により、本日の会議に過半数となる 20 名の出席をいただいていることから、会議が成立していることを事務局より報告。</p> <p>3. 協議</p> <p>（議長選出）</p> <p style="padding-left: 2em;">設置要綱第 9 条第 4 項の規定により、会長が議長を務めることとなっていることから、圓谷会長が議長となることを事務局より報告。</p> <p>（1）白河市地域公共交通網形成計画策定の進捗状況について・</p> <p>①高校生アンケート調査の結果・・・資料の内容について事務局及びパシフィックコンサルタンツ（以下、「PCKK」という。）説明</p> <p style="padding-left: 2em;">→ <u>質問、意見等なし</u></p> <p>②路線バス利用実態調査の結果・・・資料の内容について事務局及び PCKK 説明</p> <p>○主な意見等</p> <p>・アンケートや調査については個体数を調べるのがメインだとは思いますが、最終的にそこから何ができてきたのかというのが調査の目的かと思う。何か見えてきたものがあるとなればお示しいただいたほうが、次の議論につながるのではないかと。（河野委員）</p>	

→ 路線バス利用実態調査でいうと、P4に利用状況をまとめたものがあるが、一部の路線を除いて利用者が非常に少ない状況にある。P104の改善してほしい事項として運行本数や運賃に対する要望が多く、今後、路線の再編にあたっては、これらの利用状況や改善要望等を加味して考えていくこととする。個々の課題等については、この後に説明する再編方針に記述している。(PCKK)

③市民アンケート調査の結果（暫定版）…資料の内容について事務局及びPCKK説明

→ 質問、意見等なし

④白河市地域公共交通網の再編方針（案）…資料の内容について事務局及びPCKK説明

○主な意見等

・P4表の「地域間幹線」の事業主体の欄に「ジェイアールバス関東」の記載が漏れているのではないか。(圓谷議長)

→ 記載漏れのため追記する。(事務局)

・市町村は違うが、矢吹町や泉崎村、中島村は路線バスが廃止され、町や村へ行く人が減ってしまっている。白河市の誘客は、市内の方だけでなく近隣町村でもっている。近隣町村の方が市内で用事を足せるようにすることも白河市の使命であると思うので、それらに対して利便性のある交通が本来あるべきではないか。高校は白河か矢吹か棚倉に行くことが多いため、交通網が絶たれてしまうと、白河市が存在する意味すらなくなってしまうのではないかと危惧している。そのため、白河市だけをイメージするのではなく、市町村と連携し、基幹路線をしっかりと維持していただかないと、白河市のまちなかも太刀打ちできなくなってしまうのではないか。(高橋(健)委員)

→ 矢吹町、泉崎村、中島村に向かう路線は廃止となっており、これについて運行するかどうかについては、再編方針(案)の中ではふれていない。需要がどれだけあるかという問題もあるため、周辺町村と協議をしたい。石川町に行くバスについては、地域間幹線として、今回の再編の中で機能を強化しなければいけない路線として考えている。棚倉線や白棚線についても同様に位置づけている。これらの路線は高校生の通学手段としての役割が大きいいため、維持・強化する方向で考えている。(事務局)

→ P3に「市町村間路線については、関係町村と十分な調整・協議のもとに対応する」とあるが、広域市町村圏や定住自立圏の関係もあるので、矢吹町、泉崎村、中島村とも連携し、情報共有を図りながら取り組んでいきたい。(圓谷議長)

・バスの再編を考える時に、鉄道とのダイヤ調整等も出てくると思うが、再編イメージ図を見るとバスだけを考えるように捉えられるので、鉄道も公共交通としての位置づけをしっかりとしたほうがよいと考える。(鈴木(博)委員)

→ 今回の再編方針の一つとして、バス路線の再編にあわせて、鉄道を地域間の結節点として機能を強化することも位置づけている。特に、久田野駅、白坂駅については、

バスとの接続があまりよくない状況にあり、バスの利用者自体が少ない問題もあるので、鉄道とあわせてバス路線を再編することで地域の足を確保することを考えていきたい。(事務局)

- P4にあるとおり、個別の移動ニーズに対応する公共交通機関としてのタクシーの位置づけについて、タクシー事業者としての意見はどうか。(圓谷議長)

→ 公共交通不便地区やバス停までの移動にタクシーを活用するということであるが、タクシー事業者の考えとしては、公共交通不便地区は市街地からだいぶ遠いところになると思うが、福島県タクシー協会の規定では迎車料金がないため、不便地区まで時間をかけて迎えに行っても、バス停までの近距離利用のみとなると、歩合制の給与システムの中で乗務員も厳しいし、タクシー業務としても厳しい。タクシー運賃助成として利用者だけの助成ではタクシー事業者としては厳しいと感じる。(鈴木(靖)委員)

→ ご意見を踏まえ、事業の詳細を検討させていただく。(圓谷議長)

- 大きなウエイトを占めているバス事業者としてのご意見はいかがか。(圓谷議長)

→ 再編(案)については、バス事業者としても実態調査等を踏まえ検討している段階である。厚生病院までのアクセスについては西郷村も強化したいという要望がある。再編する場合には、西郷村、幹線系統については石川町、棚倉町が互いに重複しないようなダイヤを編成したほうが、補助金の絡みもスムーズにいくのでは。利用者がいないところを運行しても人件費がかかってしまうので、負担をなるべく少なくするため、短縮できるところは短縮するという案は事業者も検討している。幹線系統は隣接する市町村と連携しながら取り組むのが良いと考える。(長田委員)

→ バス事業者は、弊社もそうであったが、赤字だから路線を切ってしまう、運行本数が少なくなってお客様がさらに減るといったことがあったが、今、会社の考えとして、雇用の確保、収支、地域での役割、特に3つ目の「地域での役割」は、棚倉方面から白河までの通学の足として白棚線がかなり利用されていることから、会社としても頑張っていく考えである。このような協議会で皆様のお力も借りながら活性化につなげていきたい。(藤岡委員)

- P6再編のイメージ図で、肌色の丸印は「地域内交通」と書いてあるが、意味するところは、交通不便地域が肌色の丸で示されているという理解でよろしいか。(吉岡副会長)

→ 肌色の地域は、公共交通不便地域もあるが、現在、地域巡回バスが運行していても利用者が少ない、利用者が限られているなどがあるので、そこもあわせて何らかの交通システムへの移行を検討していきたいものとして示しているもの。(PCKK)

→ 公共交通不便地域と現在の地域巡回バスのコースを両方あわせて、今後、何らかの対応をしていきたいものとして肌色をつけているという理解でよいか。(吉岡副会長)

→ おっしゃるとおりである。(PCKK)

→ それに関連するかもしれないが、表郷・大信・東地域で紫色の矢印が出ているが凡例にはない。どのような凡例になるか。(吉岡副会長)

→ 表郷・大信・東地域については、生活拠点にまず集まっていただいて、そこから路

線バスを利用してもらおうという考え方を矢印として示したものの。(PCKK)

→ 今の地域内路線と紫色の点線の関係は。(吉岡副会長)

→ 今の地域巡回バスを示したものではないが、巡回バスあるいは不便地域に対して新しい交通システム等を利用して、一旦、生活拠点である庁舎周辺に来ていただいて、そこから路線バスに乗り換えていただくという考え方を示したものの。(PCKK)

→ 今後、こういうかたちで整備をしていきたいというイメージでこれを入れているという理解でよいか。(吉岡副会長)

→ おっしゃるとおりである。(PCKK)

- 本日の資料は生データがたくさん出ているので、多分皆さんが質問しづらいような資料になっていたのだろうと思う。出し方を工夫していただけると皆さんも分かりやすく質問しやすかったのかなという率直な印象を持った。今日の資料はよくできているというのが私の感想である。ほかの協議会の資料と比べて、現状調査などもきめ細かく実施しているし、方向性の図なども、周辺市町村も含めて広域的な取扱いになっている。定住自立圏構想の中心市としての役割をよく考えていただいたものになっている。広域的観点として、協議機関を設置するような方向性も出ているので、今の段階で良い方向に向かっていると感じた。最終的にもそのような方向で具体的に記入いただければと思う。ただ、全体で疑問に思ったのが、アンケート等を踏まえ、例えばバスの本数を増やす、運賃の負担を減らすといった提言をいただいているが、実態としては、市の予算の制限があるわけで、よいことばかり書いてしまうと、具体化した時にどこまで書き込めるのかということがある。今は方向性だから言葉できれいごとが書けてしまうが、計画の素案の段階で、サービスの提供と財政負担の折り合いをどうつけていくのかというのが今の時点では見えにくい部分がある。そこに気をつけてこれから具体的にまとめていただきたい。現在、住民サイドでどのように公共交通を運営していくかといった視点がかなり出てきている。湖南町のNPOによる無料送迎のほか、私も以前、会津若松市の町内会が主体となってバスの委託運行を始めた事例をお話させていただいた。そのような動きをもう一つの柱として入れていかないと、先ほどの財源の話を含めて、市がどこまで対応できるのかというのが出てくると思う。そのあたりの重視と、それと裏腹な関係になると思うが、今回のアンケート調査の結果を見ても、住民の関心がまだ盛り上がっていないというのがある。市民アンケート結果P33の「公共交通の維持のあり方」について、色んな選択肢が書かれているが、円グラフで一番目立っているのが、「無効・無回答」と「わからない」という回答である。別の設問でも、公共交通を利用している人は1割ぐらいで、9割の方は現在車などを利用して実際に困っていないが、将来は利用するかもしれないから公共交通を維持してほしいというのが市民の意見となっていると思う。市民の関心を高めるところに今後力を入れないと、例えば自治会単位でデマンド方式の運行をしていることもあるので、そういう動きも作っていかなければならない。住民の力をどう利用していくかという動きも考慮して、公共交通というのは鉄道会社、バス会社、タクシー会社、あるいは住民の皆さん、みんなが協力してやっついていかないとうまく対応できない状況になっているので、その辺を踏まえて最終的な取りまとめに向けてさらに具体的に提案していただけるとありがたい。そうすると、皆さんも色々意見が言いやすいと

思うので、ぜひお願いしたい。(吉岡副会長)

4. 報告

(1) 白河市循環バス等の利用状況について…資料の内容について事務局説明

→ 質問、意見等なし

(2) 白河市循環バス日曜・祝日等試験運行及び1日乗車券販売・利用状況について…資料の内容について事務局説明

○主な意見等

・1日乗車券については、ラーメンパスポートとセットの仕組みであったと思うが、そちらの現時点での結果はつかんでいるのか。(鈴木(裕)委員)

→ そちらは市の観光課で集計しているところであるが、1回目の集計を今月中に行うこととなっており、まだその結果は出ていない。(事務局)

・「その他利用者」とはどのような利用か。(圓谷会長)

→ 「その他」は、回数券、乗継券、乗換券、1日乗車券の利用者である。(事務局)

5. その他

・市役所1階ロビーで白柵線のフォトコンテストを開催しているので、ぜひご覧いただきたい。(藤岡委員)

6. 閉会